日中青年の友情計画
日中青年交谊计划

1990

国際協力事業団
研修事業部

ARY

日中青年の友情計画
日中青年友谊计划

JICA LIBRARY
1089083[8]
22138

1990

青業
JR
91—707

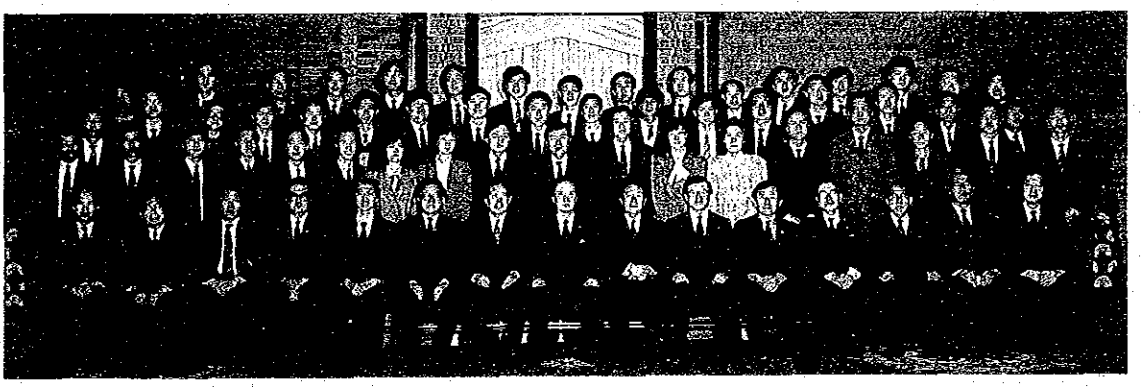
国際協力事業団
22138

信頼と友情への第一歩
信赖与友谊的第一步

平成元年度・平成2年度日中青年の友情計画
1989・1990年度日中青年友谊计划

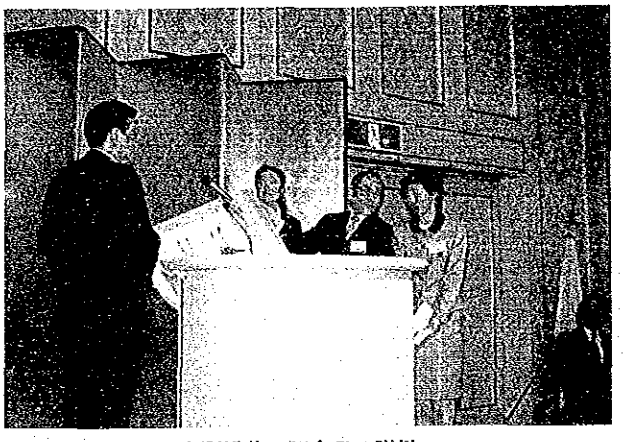
海部総理大臣表敬
拜会海部总理大臣

3月26日、中国青年50名は、首相官邸に海部総理大臣を表敬訪問した
3月26日、中国青年代表团五十名团员到首相官邸拜会了海部总理大臣



歓迎会
〈欢迎会〉

歓迎の挨拶をする国際協力事業団岸副総裁
国际协力事业团岸副总裁致欢迎词



李克強総団長から岸副総裁に記念品の贈呈
李克强总团长把纪念品赠送给岸副总裁

セレモニー後の昼食懇談会
典礼后的午餐会

揚振亜駐日大使（中央）を囲んで
与杨振亚中国驻日大使（中央）在一起

共通プログラム
〈共同日程〉

日本武道館で演武者との記念写真
在日本武道馆与演武者拍照留念

都内分野別プログラム
〈东京都内日程〉

早稲田大学を訪問
访问早稻田大学

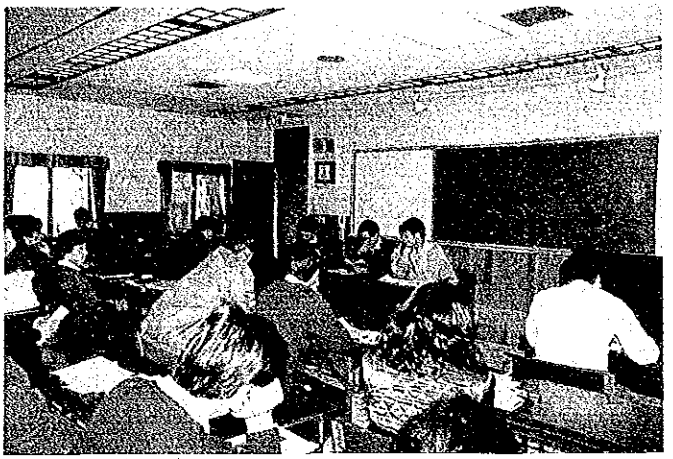
キャンパスの説明に耳をかたむける
倾听校园介绍

日本の伝統文化にしたしむ（茶道）
体验日本传统文化—茶道

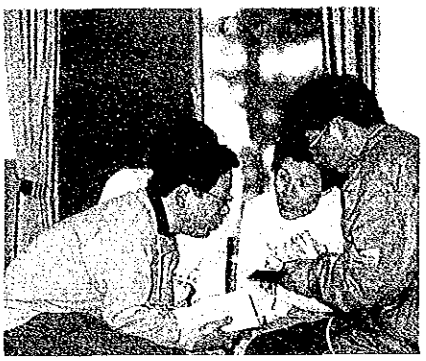
国立競技場を視察
视察国立体育场

自動車工場の見学
参观汽车工场

合宿セミナー
〈合宿研讨会〉



合宿セミナーで基調講演を聞く中国青年
在合宿研讨会上倾听基本方针报告的中国青年



分科会での熱心な討論
在分组会上热烈讨论

日中友好〝餃子〟作り大会
日中友好“包饺子大会”

思わず力が入る〝うで相撲〟大会
“掰腕子比赛”，大家不知不觉地加劲儿

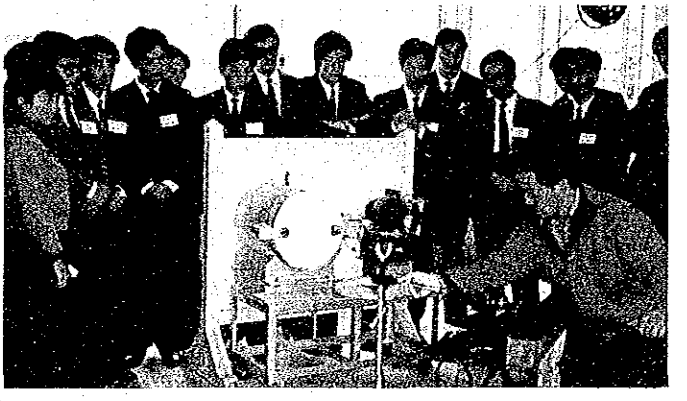
自慢ののどを披露
夸耀“我的嗓门多好！”

カラオケで広がる友情の輪
通过“卡拉OK”增进友谊

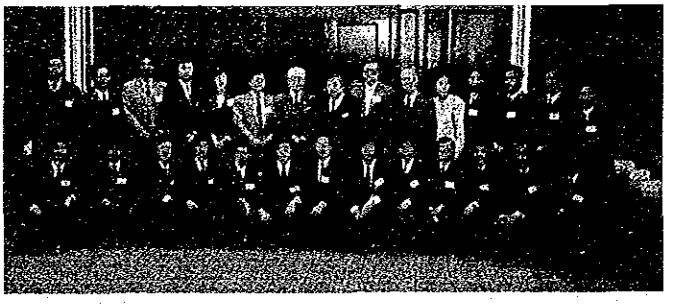
地方分野別プログラム

〈地方日程〉

地元で熱烈歓迎を受ける
当地人热烈欢迎代表团



地場産業の工場を見学
参观地方产业工场



県知事を表敬訪問（宮崎県）
拜访县知事（宫崎县）

見学旅行
〈视察旅行〉

嵐山・周恩来先生記念碑に献花をする
在京都嵐山，向周恩来先生纪念碑献花

美しい姫路城をバックに
以美丽的姬路城为背景摄影留念

広島平和記念公園
广岛和平纪念公园

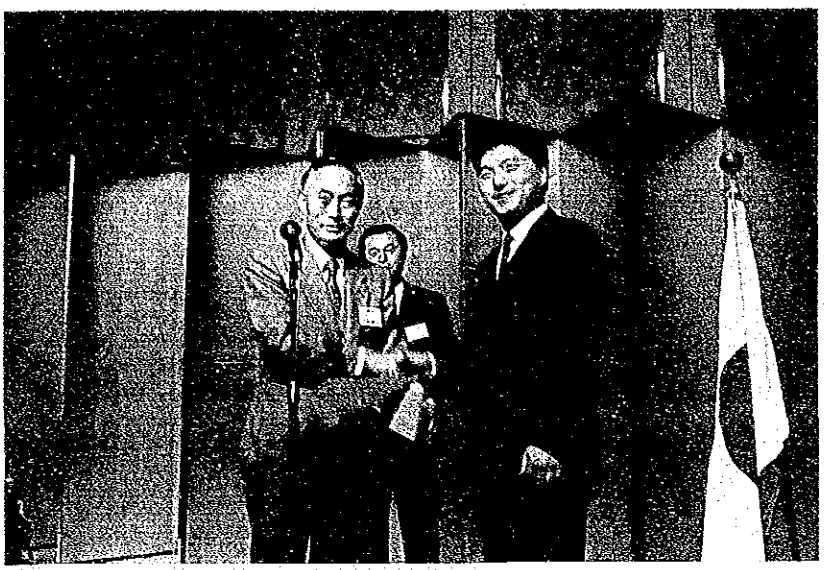
ホームスティ
〈民宿〉

新しい家族を迎えて
欢迎“新的家庭成员”

よし、ストライクをとるぞ！
一次投球全部击倒!

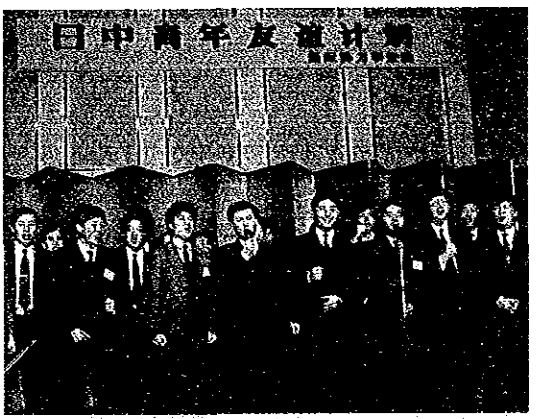
家族全員で記念写真
全家摄影留念

歓送会
〈欢送会〉



国際協力事業団研修事部伊藤次長より参加証の授与
国际协力事业团研修事业部伊藤次长授予参加证书

友情の歌声が広がる
友谊的歌声



中国青年による余興
中国青年们做余兴表演

新しい友人との話しはつきない
跟新朋友有谈不完的话

日中友好にカンパイ！
为日中友好，干杯！

日中青年の友情計画

序

「日中青年の友情計画」は、1987年より５カ年計画で開始され、すでに349名の青年を招へいし、両国の高い評価を得ております。

今年度は第４回目を迎え、青年指導者、経済青年、公務員および教員の４グループ100名を受け入れて無事終了することができました。参加青年とわが国青年との友情のきずなは、青年の帰国後も文通等によって深められ、日本青年が帰国青年を訪ねるなどの動きも活発化しつつあると聞き及び、本計画がわが国と中国との友好・親善の一端を担っていることをうれしく思っております。

本報告書は、招へい青年の代表、合宿セミナーに参加した日本青年およびホームステイを引き受けていただいた全国の家庭の皆様から寄せられた感想文を中心に、招へい青年の１カ月の滞在記録をとりまとめたものです。本事業の実施に当たっては、感想文を紹介させていただいた方々を含め、多数の方々のご協力をいただきました。そうした方々にとって本報告書が思い出の一助となり、また参加者の体験をより多くの方々に共有していただくことができれば幸いです。

終わりに、本計画の実施に温かいご理解とご協力をお寄せ下さいました関係者の皆様にあらためてお礼申し上げますとともに、「日中青年の友情計画」が今後ますます有意義な交流プログラムとなりますよう、引き続きご支援のほどお願い申し上げます。

平成３年３月

国際協力事業団
研修事業部
部長　諏訪　龍

目　　次

序

1．日中青年の友情計画

(1) 事業の概要 …… 7

(2) 実施協力団体と実施県 …… 9

2．招へい青年の印象 …… 11

3．合宿セミナー参加日本青年の声 …… 20

4．ホストファミリーの思い出 …… 25

〈実績資料〉

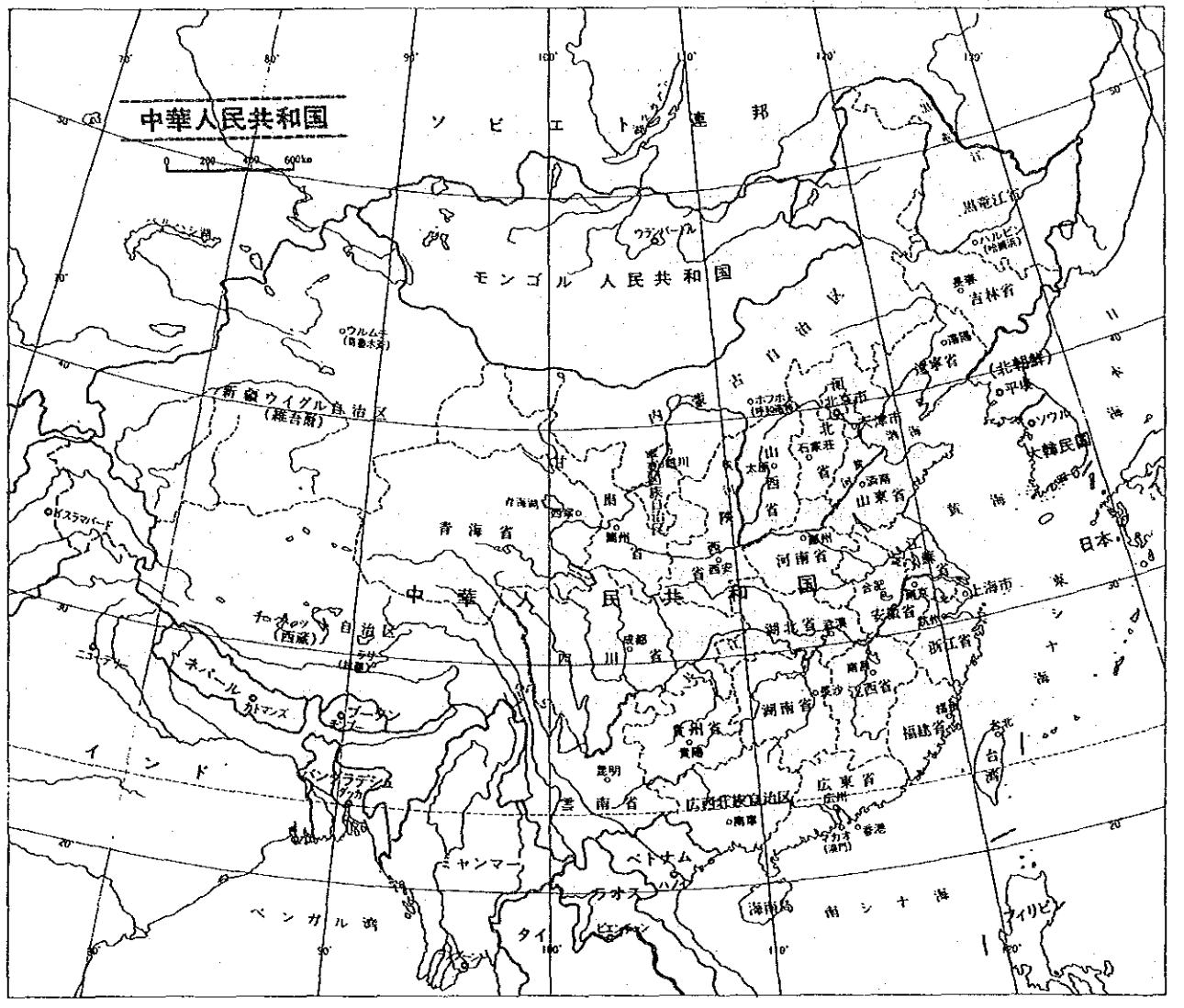
1．実施日程 …… 30

2．日中青年の友情計画実績一覧 …… 36

3．平成2年度青年招へい事業受け入れ実績一覧 …… 37

4．青年招へい事業実施協力団体等一覧 …… 38

〈招へい青年名簿〉 …… 77


中華人民共和国
ソビエト連邦
モンゴル人民共和国
黒竜江省
ハルビン
吉林省
長春
遼寧省
瀋陽
(北朝鮮)
平壌
ソウル
大韓民国
日本
日本海
黄海
東シナ海
台湾
台北
フィリピン
南シナ海
海南島
ベトナム
ハノイ
ラオス
ビエンチャン
タイ
ミャンマー
ベンガル湾
インド
ネパール
カトマンズ
ブータン
バングラデシュ
ダッカ
ニューデリー
ラサ
チベット自治区
(西蔵)
新疆ウイグル自治区
(維吾爾)
ウルムチ
(烏魯木斉)
カシュガル
カスラバード
ハバロフスク
ウラジオストク
ハルビン
内蒙古自治区
ホフホト
(呼和浩特)
北京市
天津市
渤海
河北省
石家荘
山西省
太原
山東省
済南
青海省
西寧
甘粛省
蘭州
陝西省
西安
河南省
開封
安徽省
合肥
南京
上海市
浙江省
杭州
湖北省
武漢
四川省
成都
重慶
湖南省
長沙
江西省
南昌
福建省
貴州省
貴陽
雲南省
昆明
広西壮族自治区
南寧
広東省
広州
香港
マカオ
(澳門)
ラオス

1．日中青年の友情計画

(1) 事業の概要

1) 事業の目的

21世紀に向けて、日本と中国との友好と協力の関係をより強固かつ実りあるものとするため、未来の国造りを担う中国の青年を我国に招へいし、日本の同世代の青年との交流を通じ、相互理解を深め、真の友情と信頼を培うことを目的とする。

2) 実施方法

①招へい人数

平成元年度は50名、平成２年度は100名を同時期に受け入れる。

②招へい対象者

下記分野における指導的立場にある18～35歳前後の青年。

(総団グループ、リーダー、サブリーダーは除く)

(i) 総団

中華全国青年連合会幹部

(ii) 青年指導者

中華全国青年連合会職員・青少年対策関係者等（青少年犯罪防止等）で各地方の青年リーダー

(iii) 公務員

中央政府の各部門の公務員

(iv) 経済青年

第三次産業従事者（流通、サービス等）を含む企業管理者・工場長等の国営企業・郷鎮企業の管理部門関係者

(v) 教員

小中学校等の教員・学校運営関係者等の教育関係者

③招へい期間及び時期

平成元年度　２月26日～３月28日までの１カ月。

平成２年度　11月６日～12月６日までの１カ月。

3) プログラム概要

来日	共通プログラム	日本の経済、文化、政策等についての概論
31日間	以下の分野での分野別研修プログラム ・青年指導者（スポーツ、文化、社会活動に関わる者） ・公務員 ・経済青年 ・教員	関連分野の省庁・施設等訪問 地場産業等の施設見学 日本青年との交流 ホームステイ
	視　察　旅　行	文化、社会的面から日本理解を深めることを目的とする
帰国	評価プログラム	訪日成果を強化するため評価会を行う

4) 受け入れ体制

本計画を円滑に実施するため次の2委員会を設置する。

①関係省庁調整連絡会議

(i) 任務：本計画の実施及び運営に係わる基本的事項につき協議。

(ii) 構成メンバー：

外務省経済協力局技術協力課
　　アジア局地域政策課
　　大臣官房文化交流部文化第二課
総務庁青少年対策本部
文部省学術国際局国際企画課教育文化交流室
農林水産省経済局国際部国際協力課
労働省大臣官房国際労働課
自治省大臣官房企画室
国際協力事業団

②実行連絡調整委員会

(i) 任務：実行計画の運営、分野別プログラムの実施及び各プログラム間の連携につき協議し、プログラム実施上の問題につき、国際協力事業団に対し助言。

(ii) 構成メンバー：関係省庁より推薦された民間の実施協力団体。

(社)青少年育成国民会議
(財)中央青少年団体連絡協議会
(財)世界青少年交流協会
(社)日本国際生活体験協会
(社)全国農村青少年教育振興会
(社)日本経済青年協議会
(社)勤労厚生協会
(財)ユースワーカー能力開発協会
(社)国際交流サービス協会
(社)青年海外協力協会
日本青年団協議会
(社)日本ユネスコ協会連盟
(財)日本ユース・ホステル協会
(財)国際協力サービス・センター

5) 実施運営分担

	プログラム監理	プログラム実施		食事・宿舎の手配
		連絡調整	実施	
共通プログラム(都内)	国際協力事業団	国際協力事業団	国際協力サービス・センター	国際協力サービス・センター
都内分野別プログラム(都内)		実施協力団体	実施協力団体	実施協力団体
合宿セミナープログラム(東京近郊)				
地方分野別プログラム(ホームステイを含む)		実施協力団体 地方協力団体 (国際協力事業団国内支部)	地方協力団体 (国際協力事業団国内支部)	地方協力団体 (国際協力事業団国内支部)
見学旅行(広島、京都等)		実施協力団体	実施協力団体	実施協力団体
評価プログラム(都内)		国際協力事業団	国際協力サービス・センター	国際協力サービス・センター

(注) 地方分野別プログラムは、地方公共団体の指導と協力を得て実施する。

(2) 実施協力団体と実施県

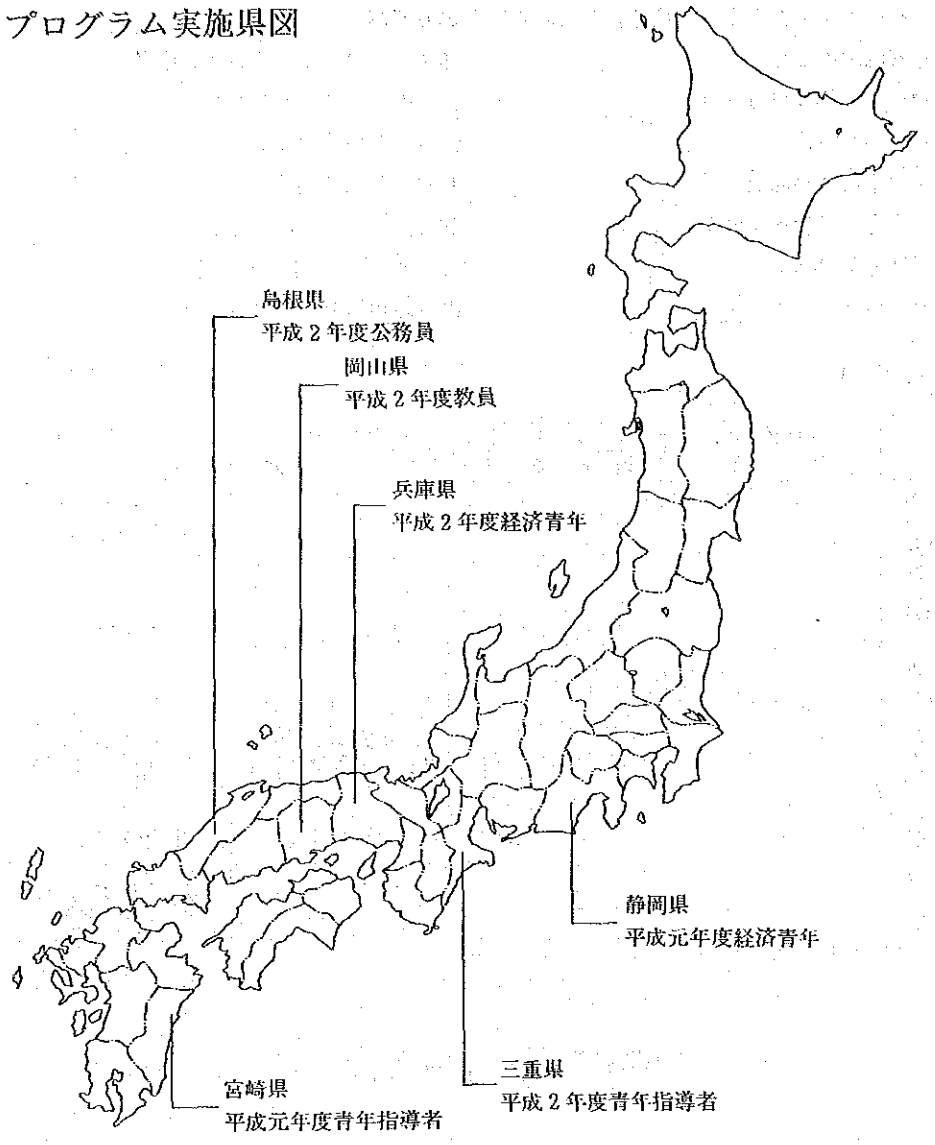
平成元年度

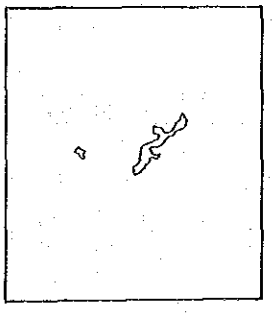
分野別	人数	実施協力団体名	実施県
青年指導者	25	ユースワーカー能力開発協会	宮崎
経済青年	25	青少年育成国民会議	静岡

平成2年度

分野別	人数	実施協力団体名	実施県
総団	4 (2名同兼任)	国際協力サービス・センター	—
青年指導者	24	日本青年団協議会	三重
経済青年	25	日本経済青年協議会	兵庫
公務員	24	国際交流サービス協会	島根
教員	25	青年海外協力協会	岡山

プログラム実施県図


島根県
平成２年度公務員
岡山県
平成２年度教員
兵庫県
平成２年度経済青年
静岡県
平成元年度経済青年
三重県
平成２年度青年指導者
宮崎県
平成元年度青年指導者



2. 招へい青年の印象

訪日の感想

陳　泰生
平成元年度青年指導者グループ

1カ月の訪問は、はじめて来日した私に多くの思い出を残した。ここでは私は最も印象深かった点――日本人の仕事に対する態度に触れたいと思う。

日本人が私に与えた一番強い印象は、親切で礼儀正しいことと、仕事熱心で責任感が強いことである。まず前者であるが、それは私が日本の土に足を踏み入れたときから感じていた。ホテルでは係であろうがなかろうが、職員は客に会うとすぐにあいさつをし、自主的にドアを開け、エレベーターを動かし、荷物を運んでくれる。旅行でも、買い物でも、食事でも、いたるところで礼儀正しいあいさつを受ける。そして後者であるが、われわれが泊まったどのホテルでも、職員の手足の動きが敏捷(びんしょう)で無駄がない。ときどき、走って客にサービスしている人も見られる。富士山の麓(ふもと)の研修センターで日本青年と合宿したときも、日本では公務員はよく残業をし、ときどき夜中の1時にやっと家へ帰れるということを聞いた。日産自動車を見学したときは、組み立ての作業員が一生懸命に仕事をしている場面を見た。

私は日本人がどうしてそんなに親切で礼儀正しくて勤勉であるかについて疑問を抱き、何人かの日本人にそのわけをたずねた。答えはさまざまだった。これは職業道徳であり、また会社に規則があって全員従わなければならないと答える人もいたし、周りの人が全員そうしているからと答える人もいた、また、優秀な社員として社会から尊敬され、昇進していくためと答える人、お金を稼ぎ、もっと豊かで快適な生活を送るためと答えた人もいた。どの答えが正しいかは私にはよくわからないが、世の中にはさまざまな人がいるから、どれも正しいと言えよう。

いずれにせよ、日本人の仕事への情熱には感激した。戦後、日本が短期間で著しい経済発展を遂げたのは、日本国民が仕事に情熱と責任感を持っているからであろう。

訪日の感想

呉　衛民
平成元年度青年指導者グループ

日中両国民は、悠久なる友好交流の伝統を持っている。日本の現代社会、特に経済の著しい発展は中国青年の注目と関心を集めた。多くの中国青年は日本をもっと理解したいと思っている。私もこの目的で「日中青年友情計画」に加わった。

日本滞在中に、われわれ一行はJICA、ユースワーカ開発協会、各実施協力団体の周到な準備と温かいもてなしを受けた。日本青年とは合宿などを通してさまざまな交流をし、有名な自動車メーカーの日産とマツダを見学し、広島の平和公園、京都の名勝金閣寺などを訪ねた。特にわれわれが感激したのは宮崎の美しい風景とホストファミリーの親切である。日本青年、そして日本国民ひとりひとりから、私は日中両国の悠久なる交流伝統と日本国民の中国人民に抱く友好感情を感じ取っ

た。また、日本青年、日本国民の勤勉な仕事ぶり、発達した経済、現代的都市建設、美しい風景も忘れがたい印象を残した。

日本側の周到な準備のおかげで、われわれは日本青年と接することができた。特に富士吉田での合宿は印象深かった。あれは兄弟のような交流であった。われわれは互いに相手から多くのことを学んだ。うれしいことに共通点が多く、性格も合っていた。私のホストファミリーの奥平さんは早稲田大学法学部卒で、今は公務員である。私は南開大学哲学部の卒業生である。専門と志向が似ているせいか、私たちは筆談と流暢でない英語によってではあるが、真面目に人生の価値、意義、目的などについて意見を交換した。共通の関心はどのように自分の努力によって充実した生活を創り出せるかということであった。奥平さんはこの点において、個人および家族の幸せを重視するが、私はこのプロセスの中に民族あるいは社会に奉仕する動機と目的を重視していきたい。それでも私たちはともに、人生の価値は苦しみの中から生まれ、創造と目的達成の過程で喜びと感動を得ることができると信じており、それはまた世界共通の原理でもある。私のこの認識は宮崎での青年、県民との交流によってさらに確認された。

日本国民は聡明で勤勉であって、働くことの価値と意味を心得ている。したがって、日本人は仕事に情熱を捧げ、一生懸命に努力する。これが今日日本の経済繁栄を生み出した本当の原因であろう。

海部首相は忙しい日程にもかかわらず、団員全員に会ってくださり、光栄に思う。

中日両国民が末永く友好的につきあっていくための基礎はでき上がっており、このような友好関係を保持していくことは単に中日両国だけではなく、世界の未来にとっても重要なことである。私は中日両国友好のために努力していきたいと思っている。

訪日の感想

陳　東昇
平成元年度経済青年グループ

春暖かな３月、私たちは友好隣国の日本に来た。中国10年来の改革と開放により、中国人民がより多く、より深く知ったのは日本であったと思う。桜、和服、富士山を、中国の子供から年寄りまで、みんな知っている。「車が山の前に至れば必ず道あり、道あれば必ずトヨタ自動車あり」という広告のせりふは、普通の子供でも暗唱できる。桜、和服、トヨタ自動車と松下電器は日本民族の象徴になった。われわれはこういう観念をもって、一種の探求の気持ちで、扶桑の国に足を運んだ。

１カ月の研修、視察、訪問で、理念的なものがだんだん豊富で、かつ具体的な感覚に変わった。さまざまな印象の中で、特に印象深かったのは日本国民の勤勉さと服従の精神である。中日両国民は何千年も同一文化で育てられ、東方民族の似たところは肌の色と血縁ばかりでなく、一種の内在的な含蓄と集団的な強い奉献精神だと思う。日本国民はわずか100年間、特に戦後の40年間で、人類の歴史上において経済復興の奇跡を成し遂げた。私たちは教科書や、いろいろな学術著作と文章の中から、日本の戦後経済における発展成功のたくさんの経験を見つけた。この中で、一番重要で一番根本的なものは、戦後経済を造りあげた日本国民の勤勉な労働と苦難な創業精神である。

日本は山が多く、また地震も多い国である。資源が乏しく人口が多い。経済発展の角度から見て、海以上に神様から恵まれたものが何もない。何もないからこそ一生懸命に努力する。日本国民は不利を有利に変え、わずか半世紀の間に経済は高度成長し、ついに世界二番目の経済大国になった。この事実はひとつの真理を教えてくれた。勤勉で、

努力さえすれば、奇跡が必ず実現する。これは中国の経済発展に対して、非常に重要なものになるだろうと思う。

日本人の礼儀正しさと客好きが私にとって非常に印象深かった。日本人の表面の静かさ、内心豊かな性格にひかれた。この1カ月の研修を通じて、日本を研究したくなってきた。われわれ両国人民は長短相補うところがたくさんあるとつくづく感じた。私はこのふたつの偉大な民族がアジアと人類の進歩のために21世紀に向け、全人類の未来に貢献することを心から期待している。

訪日の感想

劉　景斌
平成元年度経済青年グループ

初めての外国視察で、日本に来ることができ、大変幸運だったと思う。異国において過ごした1カ月間は長いようでもあり、短いようでもあり、多くの得がたいものを多方面から得ることができた。

日本は美しい国であり、そして発達した資本主義国家である。日本人は第2次世界大戦後の数十年を、自己の努力と農業を犠牲にし、世界中から大量に先端技術を導入し、重工業・化学工業を発展させ、加工品の輸出貿易を発展させるといった政策を通して、日本経済を刺激し急速に発展させ、イギリス、フランス、西ドイツよりも優れた一躍資本主義世界の中の経済大国にした。これは日本人の勤労と聡明さを表しているだけでなく、ひとつの民族精神の表れとも言えると思う。

現在、わが国は社会主義の4つの現代化を行っているが、われわれも日本と同じように、民族の困難を克服してゆく民族精神を発揮する必要があると思う。

日本人は勤勉であるばかりでなく、温かく謙虚で温和である。この点については大変深い印象を受けた。日本側の受け入れ準備は大変よく行き届いており、私たちにホームステイという方法で、日本の普通の人の家の生活を理解する機会を与えてくれた。私の泊まった家のご主人は森章さんといい、奥様は森美恵子さんという。彼らの家で私たちは心のこもった温かいもてなしを受け、日本人の中国人に対する友好的な気持ちを体験した。初めは言葉が通じず、生活習慣も異なるため、双方ともとても気をつかっていたが、双方共通の言語記号である漢字を通して交流することができ、意思疎通を図ることができ、これによって、さらに一歩理解を深め、友情を深めることができた。

今回の視察訪問の中で、最も印象深かったのは日本のサービスである。

日本人は、まるでひとりひとりが皆商売上手であるような感じを与える。ホテル、商店、喫茶店といわず、娯楽場といわず、皆、人に自分からすすんで彼らの商品を買い、お金を払って彼らのサービスを受けたい気持ちにさせる。お客がお店のドアに足を踏み入れたとたん、まず「いらっしゃいませ」とあいさつをすると同時に、笑顔で迎えいれてくれる。お店の中の商品はすべてお客が自分で自由に見て選ぶことができる。お客は何を買いたいのか、言いさえすれば、販売員は必ずお客のために探し出してくれる。そして、たくさんの商品を出してお客に推薦してくれる。ときには、買わないと販売員に申し訳ないような気持ちにさせられる。これが日本の商業を発展させた要因なのではないだろうか!?

1カ月の視察訪問は、まもなく終わろうとしている。私は多くのことを学んだような気もするが、まだ学ばなければならないことがたくさん残っているような気もする。今後、このような交流と視察をさらに増やし、さらに多くの中国青年が日本を理解できるように、同時にさらに多くの日本青年が中国を理解できるようになってほしいと思

う。

訪日の感想

常　連霆
平成２年度青年指導者グループ

11月６日、私は好奇心と探求の気持ちで、初めて一衣帯水の隣国――日本にやってきた。１カ月の研修生活が始まった。私の吸収神経がまだ興奮しているうちに、時間の赤いランプがついた。時間のたつのが速すぎる。時間はそれほど長くなかったが、受け入れ側の行き届いた手配で、あらゆる講座、見学、合宿セミナー、ホームステイなどの交流活動を通じて得た、日本に対する印象は次のとおりである。ここは神秘的な土地であり、創造精神のある民族であり、発達した豊かな国である。

私は青年指導者として、日本の青少年問題について非常に興味を持っている。当然、青少年問題は社会問題全体の一部分であり、青少年問題の研究は、政治、経済、文化と切り離せないものである。共通プログラム中、東京でのいくつかの講義は非常に参考になった。山中湖での合宿は、運よく総務庁青少年対策本部の藤波先生と同室でき、1989年度日本青少年の状況に関する白書を読むことができた。日本政府の青少年対策は独自の特徴があり、われわれが取り入れるべきところがあると感じた。

そして、日本の発達した生産力に深い印象が残った。本田技研鈴鹿工場を見学し、ハイレベルの電気機械産業と発達した運輸業に感心した。そのうち、一番印象深かったのは、やはり日本人の創業精神、効率観念と外来先進文化の吸収力である。こういう素質はひとつの国、ひとつの民族の生命力と活動力を保つには欠かせないことだと思う。

三重県での地方プログラムも美しい思い出があった。この「陽光地帯」で、日本の風俗伝統文化を知ることができた。特に一生涯忘れられないのがホームステイの日程であり、最も深く、相互理解と友情を深めることができた。私のホストファミリーの女性ホストは浜口幸子さんという方で、大学を卒業したばかりで、国際協力事業を志す方である。彼女を通じて、日本青年の素晴らしい素質と美しい心を見ることができた。彼女と彼女の家族の私たちに対する温かいもてなしは、日本国民の日中友好を推進する強烈な願望を感じさせられた。私は日中両国の友好関係がいつまでも続くことを信じている。

成功した視察――訪日感想小記

楊　樗権
平成２年度青年指導者グループ

１カ月にわたる視察訪問がもうすぐ終わる。１カ月間、講座、参観、合宿セミナー、ホームステイ等の活動を通じ、われわれは日本の政治、経済、文化および青年と青年指導の仕事について幅広く視察し、少なからぬ収穫を得たと思う。ここではそのうちの三点を述べるだけにする。

１．日本社会と経済発展に対する視察を通じ、わが国の改革開放政策をより深く理解できた。第２次大戦後の日本経済はなぜこんなに早く発展できたのか。日本側が紹介してくれた多くの経験の中で最も印象深かったのは、対外開放のことである。開放によって明治憲法が誕生し、日本経済の振興に決定的役割を果たしたこと、開放によって西洋の先進技術と管理経験を大量に導入できたこと、開放によって資源が乏しいというジレンマを解決し、日本製品を世界に送り出すことができたことである。対外開放は確かに強国への道であるということを、日本経済の発展は実践で証明している。

2．日本の青年指導者との交流を通じ、青年指導者から多くの経験を学んだ。たとえば、社会教育を積極的に進め、青年のためよい学習環境をつくったこと。青少年の活動施設の建設を重視し、それに対する資金を惜しまなかったこと、一連の法規によって未成年者を保護していること等である。また同時に中日両国は青少年育成面で多くの共通した検討課題があることを感じた。たとえば、青少年の家庭教育問題をどう重視するか、青年の友人・恋愛・結婚問題にどう対処するか、青少年育成のためにどうやってよい社会環境をつくるか等の課題である。今後、中日両国の青年指導者はこうした面においても常に交流すべきである。

3．日本の各界の青年との交流を通じ、日本青年の中国人民に対する友好的な感情を実感した。われわれが接した日本青年は皆過去の戦争の教訓から、永遠に続く真の中日友好関係を打ちたてたいと強く望み、そのために多くの具体的な意見を示した。日本青年のこうした誠意と願望は、われわれに中日友好を促進させる自信を与えてくれた。

今回の視察の素晴らしい成功は、JICA、日本青年団協議会、三重県連合青年団の多大な尽力があったからこそである。彼らは視察活動のために周到で合理的なプログラムを作り、熱心で有能なコーディネーターを配し、活動に必要なあらゆる便宜を図ってくれた。この友情は永久にわれわれひとりひとりの記憶の中にとどまるであろう。

「友情計画」に参加して

陸　康勤
平成２年度公務員グループ

幼いころ読み、見たことがあるが、長い歳月を経て忘れてしまった。このたび広島平和記念館に参観して、小さいころのことを思い出し、自分の体験も加わって、この完璧な創作とはいえない詩を書いた。これはふたりの子供（中国人と日本人の子供）およびあの戦争で亡くなった子供たちの魂が出す声である。

扉を開けて、扉を敲くのは私

扉を開けて、扉を敲くのは私
あなたは私が気づかない
火が私の眉毛、髪を焼いたから
最後には私が灰と化したから

扉を開けて、扉を敲くのは私
私は７歳だった
今生きていれば52歳だ
しかし死んだ子供はもう成長しない

扉を開けて、扉を敲くのは私
私を恐がる必要はない
私はただ世界に訴えたいだけ
これから、もう二度と戦争が起きないように
これから、子供が焼け死ぬことがないように

扉を開けて、扉を敲くのは私
さあ、生と死の大門を開けて
あなたの心の扉を開けて
私はひとりひとりの心の中にありたい

後に残ったもの

何も残らなかった
何もかもが残った

光陰矢の如し
私は結局行かねばならない
東京、京都、広島、島根を回り……、

まるで何も残っていないようだ
私の足跡、あなたの笑顔
これから、どこに訪ねればよいのだ

何も残らなかった
何もかもが残った
これから、美しい富士山とあの雄大な長城の姿が、
私の夢に現れるだろう
これから、小塚さんの純朴な笑顔も、
瀬戸内海のそよ風に乗って、
私の心を吹き抜けるだろう

何も残らなかった
何もかもが残った
残った
劉さんの細やかな気配り
林さんのかわいい「天仙配」の歌声
これから
私は母の笑顔に吉田さんのやさしい笑顔を思い出すだろう

何も残らなかった
何もかもが残った
残った
一杯また一杯と重ねる酒
あの「九月九、酒は熟し……」
残った
悠々とした日本の太鼓
そしてあの楽しいチベット族の踊り
何も残らなかった
何もかもが皆残った
残った
「謝々、謝々、あなたと夢の中で会いたい」
いや、夢の中でしか会えないなんて耐えられない
私たちは明日また出会い、21世紀に出会い
中日の子子孫孫に渡る友好の中で出会うのだ

何も残らなかった
何もかも皆残った

日本の印象

王　志銘
平成２年度公務員グループ

１カ月におよぶ日本、京都、広島、島根等の視察訪問を通して、特に合宿民宿で普通の日本の友人と生活を共にしたことが深く印象に残った。

主に、

１．日本人は客好きで温かく、平和を愛し、特に中国に対し一種特別な感情を持っている。特に日本の友人と共に行った合宿および島根県益田市のホームステイにおいて、普通の日本人と友人になれたことは、私にはよい思い出となっている。

２．参観訪問を通して私は日本に対し、比較的深い理解を得ることができた。日本は科学技術、文化教育、生活水準、交通管理等が比較的発達した国であり、日本国民は生活に満足し、仕事を楽しんでいるという印象を受けた。

３．中日両国には歴史上、密接な関係がある。しかし両国民間の相互理解はまだ深く広いとはいえない。国民間においてさらに相互理解が深まり、またその機会が多くなることを願う。

研修視察の感想

高　暁林
平成２年度経済青年グループ

1990年11月６日から12月６日までの30日は並大抵ではない30日であった。私は光栄にも中国の経済青年視察団の一員として、日本へ１カ月の見学、研修をすることになった。時間は短かったが、日本側の周到な手配の下で、見学内容は多彩豊富であり、深い印象を受けた。言うまでもなく、この１カ月の生活は生涯よい思い出となると思う。

１カ月の旅を振り返れば、実に愉快で、楽しかった。旅の終わりに際して、いろいろなことが走馬燈のように頭の中にひらめき、感無量である。この機会を借りて、自分の心情を表したいが、書きたいことが多すぎ、どれを先に書いたらいいのか分からない。まず、一番印象の深いところから書こう。

〈松下工場長の管理〉

今回の訪日は受け入れ側のお手配の下で、われわれは新日鉄、日産自動車工場、東芝姫路工場、松下電器を見学し、雪印乳業、岡田金属工業で研修することができた。いろいろ見て大変感激した。特に雪印乳業での見学、松下工場長の企業経営の経験談、すなわち、QC活動、目標管理、提案活動、労働の安全管理活動等、大変勉強になった。見学した会社のこれらの経験は自分たちの仕事に参考になるものが非常に多かった。

〈箱根での合宿〉

風光明媚な箱根の秋はひときわ美しい。温かいホスト側は中日青年の最初の合宿セミナーを人を魅惑する箱根に手配した。「中日友好のためにわれわれはなにをなすべきか」をめぐって４つのグループに分かれて、愉快で熱烈で意義深い座談会を開いた。過去は過ぎ去り、今を直視し、将来をめざす。友情には国境はなく、中日両国青年の心は相通っている。今から私たちはともに、中日友好、アジアと世界の平和のために、私たちなりに力を尽くさなければならないというのが双方の出した結論である。

〈岡田さんの誕生日〉

訪日がいよいよ終わろうとする12月１日は、折よく私たちとともに１カ月を過ごしたコーディネーターの岡田美和さんの誕生日であった。代表団全員がひとりも欠席なく、団長の部屋に集まり、バースデーケーキや、おいしいお酒があふれんばかりに並べてあった。和やかな雰囲気、誠意のこもった交流、感動の場面ばかりであった。これは今回の訪日の成功に対する祝賀の意もあり、岡田さんとほかの日本友人の周到な配慮に対する感謝でもある。この気持ちは自主的で心底からのものである。

以上の三つのシーンは、私自身の訪日の感想を表しているようで、完全に表しきれていない。総じて言えば、30日の訪日は私にとって生涯忘れられない収穫の多い感激深い30日であった。

研修視察で得たもの

許　維新
平成２年度経済青年グループ

秋さわやかな季節に、中国経済青年グループに参加して日本を訪れた。JICAと日経青の周到な手配のおかげで、１カ月の視察、研修はとても楽しかった。日本青年との交流と企業見学を通じて、日本の企業の発展、日本国民、特に若者の生活、勉強、仕事と日本人の風俗習慣に対して、少し知るようになった。１カ月の間、企業と

大学のたくさんの日本人と友達になり、深いよしみを結んだ。日本人の礼儀正しさ、優しい心、仕事に対する企業職員の忠誠心、真面目な態度は深い印象を残し、とても忘れられない。

1カ月の視察、研修の中で一番印象深いのは次の三つである。

1．戦後40年余、日本は経済発展に力を入れることによって、生産高が増加し、企業の経済利益も高まった。たとえば新日鉄君津製鉄所の1989年度の総生産量は2822万トンで、売上高は2万5,700億に達している。経常利益は2,000億で、純利益は970億円である。日本の企業は先端技術を生産に導入することにも力を入れていることを感じた。新日鉄君津製鉄所は1968年からコンピューターを生産に導入した。日産自動車追浜工場は1970年から組み立てラインにロボットを導入した。生産を発展させると同時に、企業は環境保護にも力を入れている。新日鉄君津製鉄所の構内の緑化面積は16パーセントに達している。少なからぬ企業は廃水、廃気の最利用の面でも工夫している。

2．日本の企業は職員の労働意欲を引き出し、労使間に存在する矛盾と問題の研究に力を入れている。たとえば「日経済」は1969年から20数年間、ずっと企業職員に対して意識調査をやっている。見学した多くの工場は労働者が経営活動に参加すること(たとえばQC活動、TPM活動、スローガン活動）を奨励している。君津製鉄所の労働者の提出したスローガン「個人の能力を発揮し、グループの親睦を図ろう」「自分の周囲を観察し、個人の想像力を発揮し、その中で新しい技術を生み出す」等はとても印象的であった。

3．東京での体験的日本語学習、兵庫県の青年との合宿セミナー、日本の友人、中野浩一さんの家でのホームステイ等を通じて、中国人民に対する日本国民の友情をこの肌で感じ取った。日本青年も戦争を憎み、平和を愛しているので、われわれの友情は素晴らしい基礎があると思う。

今回の訪日のハイライトはホームステイである。中野さんの家での2日間、筆談、ゼスチャーに表情を交えて、心の通い合う話ができ、深い友情を結んだ。別れる際、私は長い手紙を書き残し、手紙の中で「海内に知己あり、天涯は隣の如く近し」という中国の古語を引用して、自分の気持ちを表した。中野さんの奥様は「蓮根」という水彩画をかいてくれた。私たちはこういう友情はとこしえにと心から願い合っていた。

日本での短い1カ月の生活を通して、中日両国民は歴史において、交流を通じて、相互理解、相互促進を図ってきたことを再認識し、今後21世紀をめざして、われわれ両国の国民、特に青年はわれわれの真心で世界の平和をつくるために努力しなければならないと痛感したのである。

日本訪問の感想

呉　欣栄
平成2年度教員グループ

日本に来てもう1カ月経った。感想と言えば、たくさんあるが、ここでは、日本の女性について自分なりの感想を述べさせていただきたい。

日本に来る前の私は、日本女性についてあまり知らなかったといえる。日本人女性といえば、家庭の主婦で、社会と無縁だということだけは知っていた。しかし、実際に日本人女性と付き合ってみたら、そうでもないということが分かった。

まず、女性が家庭の主婦だというイメージは変わりつつある。たくさんの女性はだんだん家庭から出て、社会に進出している。そういうことで、伝統的な考え方が揺れつつあると言えるだろう。

また、日本の女性のほとんどは商業、サービス、教育、社会福祉などに関する仕事に携わっている。会社では重要な仕事を担当してはいないが、たく

さんの女性が社会進出することによって、女性の社会的な地位がだんだん高まっている。

今回、私たちを受け入れる団体の中にも何人かの女性がいたが、彼女たちは仕事の最初から最後まで、また、私たちの生活を指導し、通訳することに、とても高い能力を表した。特に、出沢さん、甲さん、郭さんたちは私たちに深い印象を与えた。

日本女性の事情は複雑なもので、社会進出することとよい家庭の主婦になることは、平行的に発展している。また、社会全般では託児施設の不足、社会評価の相違などによって、女性たちが仕事と家事、仕事と結婚、結婚と感情などをうまく処理することは難しいといえる。これは社会からの理解が必要だと思う。

日本の旅の感想

陳　昆

平成２年度教員グループ

１カ月の日本の旅が終わろうとしている。やっと慣れたところで日本を離れるのは、なんとなく寂しい感じがする。自分の国を出る前に、知らない国に行ったらいろいろな困難に出合うに違いないと心配した。しかし日本に来たら、意外に順調に過ごせた。言葉の通じない国で30日間の有意義な日々が送れ、外国にいることをまったく感じなかったのである。この短い30日が私の記憶に深い印象を残すに違いない。私は、日本と日本国民についてまったく知らないわけではなかったが、しかし今日はじめて、この国とこの国の国民について本当に知ることができたと自信を持って言える。

日本国民は中国人民と同じように勤勉で優しくて平和を愛している。戦後50年にもならないうちに自分の智恵といろいろな苦労で今日の豊かな国を築き上げ、世界の先進国になった。

日本に滞在中、たくさんの日本人の友達ができ、私にも美しい思い出ができた。出沢さんは代表的な日本人女性で、彼女の真面目さ、仕事ぶり、疲れを知らない精神は、日本のテレビドラマ「おしん」の主人公を思い出させる。私のホームステイ先の和子奥さんは伝統的な日本人女性で、彼女の正直さ、優しさ、友情を大事にすることは一生忘れられない。言葉が通じないことはとても困るが、３日間のホームステイのでは、この困難は私と家族の方との交流を妨げているとは、全然感じなかった。これは和子奥様の言ったとおり「心が通じるから言わなくても分かる」からである。私はいつかまた日本に来たら、必ず瀬島先生ご一家と和子奥様を津山市に訪ねたいと思う。

日本人女性に比べると、日本人男性はあまり特色がないと感じたが、栗崎さん（旅行者の方）は私に深い印象を与えた。彼は私たちと一緒の時間はそんなに長くはなかったが、私たちが新しい場所に移動したとき、また、おなかがすいたと感じたとき、彼は私たちの目の前に姿を現すのだった。彼はいつも機敏で時間を守り、責任感のある人だった。

日本は教育に力を入れている国だと思う。私たちは６カ所の学校を訪問したが、学校の素晴らしい発展と子供たちがよい教育を受けて成長すること、成人教育と生涯教育について大変感心した。私は教育の仕事に携わるものとして、日本で勉強したこと、日本の素晴らしい経験を責任を持って国に持って帰り、わが国の教育事業に貢献したいと思っている。

私は日本でとても美しい日々を送った。国に帰ったら、私の見たこと、感じたこと、聞いたことを私の親戚と友達に伝えたい。また、将来、私の子供も私と同じように日本人の友達と友好的な交流ができるように、中日両国民がはいつまでも友好関係を保てるように念願する。

3. 合宿セミナー参加日本青年の声

合宿に参加して

柏本　実
団体職員

今回の合宿は、日ごろの自分の生活範囲では出会えない人々と交流する機会として貴重なもので、３日間がとても有意義で、新鮮な気持ちで東京に戻ってきた。

中国の方々と話していて勉強になることはいろいろあったが、おもしろく思ったのは一番共感を持てた話題が結婚や家庭についてだったことだ。当たり前かもしれないが、恋愛における価値観や親子の関係等には、国が異なっても大きな違いはないということである。ただ、中国では男女平等の考えが社会に浸透していて、男性の家事分担が当然のことであり、参加者の何人かの中国男性は「私は妻より料理がうまい」「私の家では家事をこんなふうに分担している」等説明してくれた。私は結婚後も仕事を持っているので、毎日の問題としてこの点には大変興味を覚えた。

また男性と肩を並べて働き、かつ２～３歳の男の子がいる同室の女性ふたりは、「子育ては本当に体力的にも大変だから、子供はひとりで十分なのよ」と言っていた。彼女たちの言葉は単に「ひとりっ子政策」に依ったものというより、心底実感がこもったものだった。またそういう彼女たちには、国を超え、一生懸命生きている人間の輝きがあったように思われる。そのひとり、四川省成都の通称〝マーボードーフ〟の楊さんから後日お便りをいただき、「ぜひ遊びに来てください」と書いてくださったので、何とか時間をつくって訪中できたらいいなあと考えている。

「国際交流はこうあるべきだ！」等と肩ひじ張って論ずることは私にはできないが、これからもひとりひとりとの関係を大切に、絶えず内外を問わず視野を広く持とうとする姿勢を忘れずにいたいと思っている。

合宿セミナーに参加して

長谷川　崇
会社員

ここ数年、世界は激動の時代を迎えて、大きな変化が各地で見られた。ソ連における改革、ドイツの統一そして今回のセミナー対象国である中国においても活発な動きが見られた。

私が参加したのは、中国青年指導者との交流セミナーで、この大きな変革期における指導者としてどのような考えを持っているのか知り得る期待と、多少の年齢差（私たち日本人の平均年齢が26～７歳、中国人が34歳くらい）に対する不安とを持ち、このセミナーに臨んだ。

セミナーは山中湖のほとりの閑静な場所で行われた。大まかにプログラムを分けると、１．講師による基調講演　２．レクレーション（ドッジボールなど）　３．分科会討議　４．交流の夕べ　５．分科会の発表であった。

「レクレーション」と「交流の夕べ」では、スポーツ、また各民族色豊かな出し物により楽しいひとときを過ごした。

一方このセミナーの最も重要なプログラムである分科会討議は、講師による基調講演（内容は現代日本が抱える問題などの紹介）に基づき、５つに分かれて行った。私たちのグループの討議テー

マは「真の日中友好を考える」だったが、中国の人たちは非常に日本に対する関心が高く、次々と質問を私たちに浴びせ、その主なものは日本人の生活そして考え方についてのもので、後の「分科会の全体発表」で分かったのだが、どのグループでも友人、恋人、恋愛について話し合ったようだった。

今までに訪れたことのない中国、しかもその国民の一部の人たちではあったが、中国人の方と寝食を共にした3日間によって、私に新たな角度から中国を見させてくれ、さらに酒を酌み交わしたこともあわせて、このセミナーを通して中国人の気質のようなものを感じ取ることができた。

今後、この経験を生かし、諸外国（東南アジアを含む）とも理解し合い、相互交流に役立てていきたいと思う。

ただひとつ残念だったことは、現在の中国における大きな問題であり、私の関心の的である「天安門事件」について、社会体制が異なるからか中国の人たちの素直な意見や気持ちを聞くことができなかったことである。いつか中国の国民が自由に意見を言える時代が来ることを期待している。

今後もこのようなセミナーが頻繁にそして広範な人たちの参加によって行われ、「真の友好」を築き上げる一助となることを希望する。

日中青年交流セミナーに参加して

佐藤　都子
学　生

日中青年交流セミナーに参加する機会に恵まれ、本当に充実した3日間の研修を送ることができた。

中国の情勢などは、新聞や雑誌などの情報として手には入るものの、私個人にとっては、中国人と接触する機会はほとんどなかった。これは、すぐ隣の国でありながら不思議であり、また残念なことでもあった。

中国という国、そしてなによりも、そこに住む人たちがどのような生活をし、何を考えているのか、という飽くなき興味はあったものの、中国語のまったくわからぬ状態でセミナー中どうしたらよいのだろうか、と不安はあった。しかし、幸いなことに、通訳の方々がどんなささいな質問、疑問も、丁寧に通訳してくださり、さまざまな中国の話を聞くことができ、大変感謝している。

このセミナーにおいて、パーティーやスポーツを一緒に楽しむことによって親睦を深めることができたが、お互いを知り合うという機会では、やはり分科会が何よりも充実していたように思う。すべての人の意見が聞けるちょうどよい人数に分かれての分科会では、日ごろ疑問に思っていることを直接提示し合い、話し合うことができた。話し合いの内容は、現代の若者たちがどのようなものに興味を持っているか、またどんな問題を持っているかなどから、中東湾岸問題にまで及び、幅広くも深い話し合いができた。中国側は、社会のトップで活躍なさっている比較的同年代にかたまっている方々だったが、日本側は、日本の経済の最先端で活躍されている若手の方から、私のような学生までと層が厚く、それだけ中国の方々に、日本のさまざまな方面から集まった若者の話を聞いていただけたように思う。

話の中では、余暇の使い方、あるいは家庭における男女の役割などについてもでたが、中国では女性もほとんどが仕事を持っており、家庭での仕事の分担は平等であること、そしてそれによって、夫、妻ともに、家庭で一緒に過ごす時間が多いということがあった。こういった面で、まだまだ後れている日本側にとっては、大変参考になるお話だった。このほかにも、お互いに学びあえることが多かった。もちろん社会体制の違いがあり、すぐにこれらを日本でも実行しようとしても難しいことも多いだろう。しかし、われわれ資本主義の

中で生きているものも、社会主義の中から学べることも多いだろうし、またその逆も言える。

全世界がめまぐるしく変化していく中で、もう資本主義だけの世界や、社会主義だけの世界にとどまっていることは不可能だ。そのようなとき、政治家レベルや会社のトップレベルでの交流ももちろん大切ではあるが、もっと個人のレベルで、隣の国の人は何を考え、どのように生活しているのか、ということに興味を持つことによって、もっと深い理解が生まれるのではないだろうか。そして、国という大きな枠組みにとらわれることなく、個人同士の理解からはじめることによって、個人の発展、そしてそれが、国または世界の発展につながっていくのではないだろうか。そのためにも、これからますます、個人または小さなグループ単位での交流が望まれる。現在、日本国内にも、多くの中国人をはじめ、他のアジアの国出身の人たちが多く住んでいる。自分のまわりを見まわして、その人たちと交流することからも始められることである。

日中合宿セミナーに参加して

荻野　三千雄
教　員

合宿セミナーの会場である御殿場の宿舎は富士山の麓(ふもと)にあるので、その美しい形状や山頂が手にとるように見える。晴天に恵まれた合宿中、私たちは秀峰富士を背景に親しくなった中国の教員たちと入れ代わりたち代わり、何度記念写真を撮ったことだろう。そういう意味では、日中教員交流セミナーの場として、まさしく格好の地であったといえる。

ところで、この合宿セミナーへ参加するまでは、私には少なからず不安があった。中国の人たちはあまり英語は話さないと聞いていたからである。すると、意思疎通を図るのは中国語!?　私の中国語の知識は麻雀の上がり役の名前と「你好(ニイハオ)」ていどのものでしかない。これは困ったことだと思ったのである。

しかし、それは杞憂であったことがすぐ分かった。同室の徐さん、陳さんの顔を見たとき、われわれ日本人とまったく同じ容貌、背格好、物腰に、すぐ仲間意識が芽生え、漢字の筆談が十年来の知己のような親しみを起こさせてくれたからだ。

共通の文字である漢字は、もちろん、現代の日本と中国で使用されているものに違いはあるし、語順や語法も異なるが、互いに理解しようとする熱意があれば意思は通じるものである。人の気持ちを理解するには相手の立場に立ってものを考えるという、ごく当たり前で忘れていたことを身をもって学んだ気がする。

わずか２日間という短い日数であったが、本当に人間的な触れ合いを持つことができたのは、素晴らしいことであった。日中のいわば正式な教育問題についての討論はいうまでもなく、レクリエーションのボーリング大会や夕食後の部屋での気楽な談笑が楽しかった。国家間レベルではない民間レベルの交流が、国際理解・国際協力の推進のためには必要だと痛感した。あの「天安門事件」について中国の一般人の感想や意見を聞く機会に恵まれるなんて普通では考えられないことだったろう。

やや誇張していえば、経済大国と賞揚され物質的繁栄を謳歌する現在のわが国が、明治維新以来このかた、企図したところはなによりも西欧文明への追随であり、その凌駕(りょうが)であったといえる。つまり外国といえば、追随、凌駕の対象として存在する西欧諸国以外眼中になかったのである。

また、物質面での向上を追求するあまり、われわれは文明にのみ固執し、他民族との共存にもっとも肝要な「文化」の理解をないがしろにしてきた。古代より文化的にもっともかかわりのある隣国、中国や朝鮮、東南アジアの国々が、つい最近

まで「近くて遠い国」であったのはこのような歴史的経過によるものではないのか。

私は今回の合宿セミナーに参加して中国の人たちとの交流を通じ、彼らの豊かな人間性や数千年にわたり民族が育くみ伝えてきた文化を大切に守っていることを知り、物質的な繁栄とひきかえに、わが国が失ってきたものに思いを馳せずにはいられなかった。

偉大な隣人、中国

藤田　壽子
教　員

10年ほど前、中国をひとりで旅した。無謀にもあの広大な大陸国家の西の端カシュガルという町まで行ってしまった。何日も汽車とバスを乗り継いで、やっとたどり着いた。その間に出会った青い目や赤い髪の人々の親切が、いまだに忘れられない。また、海岸地方では古い建物や仏像に接していると、なぜがホッとした。日本の伝統や文化はここから来たのだ、という懐かしさを覚えたものだった。

私にとってよい思い出ばかりの中国だが、近代史以後、何度か激動にゆれ、つい何年か前にも大波のひとつにみまわれた。あの悠々とした国がどうなっているのだろうと心配しているところへ、今回の合宿セミナーの話があった。私と同業（教育関係）ということで、興味深く参加させていただいた。

参加青年の方々は、中国では高い地位にある方ばかりで、最初は表向きの話が続いた。しかし、寝食を共にしているうちに打ち解けていった。グループ討論では堅い題材ばかりにもかかわらず、本音を交じえた白熱した討論になった。私が参加

した「学校道徳教育」についても、中国の方々は〝道徳の精神がゆきとどいている日本〟を学びたい、日本側は〝儒教の国、中国〟はどんなだろうか、ということで、最初から熱心な姿勢がうかがえた。両国とも、よい面もありながら、日本では「新人類」と言われる若者を抱え、中国はひとりっ子、教育制度の改革などの問題を抱えている。しかし、両国ともに、努力と情熱を持った教育関係者がいるかぎり、未来はある、という希望をもって討論を終わった。

広大な国土と数多い民族を抱えた中国は、これからも激動の時代が続くだろう。しかし、セミナーで会ったような、りっぱな表面と温かい内面を持ち合わせた指導者に導かれるなら、きっとよい方向に進むだろうと思った。そして、参加した日本青年の中に、何人もの素晴らしい教師を見いだしたのもこのセミナーの大きな成果だった。

4000年の歴史と若い力にあふれた中国。そして、その文化を母として育ってきた日本は、これからも最も近い隣人である。参加した通訳の方々の中に何人もの残留孤児三世等、歴史の証人がおられたことも、両国の深い関係を物語っていた。

これからも偉大な隣人に学び続けていきたいと思っている。

4. ホストファミリーの思い出

漢字の国の人だもの

中村　麗美
兵庫県

「今度、中国から家に泊まりに来る李さんは、言葉が通じないよ。どうしよう」とお母さんに言われて私も少し不安になった。今までの外国からのお客様は、全部英語が通じたからだ。でも、今回はその英語が通じない。

とうとう李さんが来る日がきて、その日はずっとドキドキワクワクしていた。李さんはスラリと背が高く、目がキョンとして、大きなバッグを持って、とてもやさしい感じの人だった。応接間に入っていくのをとなりの部屋からそっと見ていると、私はお父さんに呼ばれた。私は、すぐ応接間にかけつけた。すると李さんがいて、私は少し緊張してたけど、李さんの前に立った。そして思い切って私が唯一知っている「你好（ニイハオ）」という言葉であいさつをした。通じるかどうかの恐怖心と、国際人になれたようなうれしい気がゴチャ混ぜだった。でも、「你好」とスルリと口から出てきた。わたしは、「ワー、スゴイ」と自分をほめて、心の中で叫んだ。

それからずっと身ぶりと、私の知っている漢字で、何でも話がわかった。漢字とパンダの絵で、〝パンチャン〟という3歳の女の子がいるのが分かったし、絵が上手なのでデザイナーだっていうこともわかった。中国語では友達の結花ちゃんは〝チェイフォワ〟、私は〝リィメイ〟と呼ぶと教えてくれた。私はかわりに〝ちびまる子ちゃん〟を教えてあげた。

2日目の夕食に、水ぎょうざを一緒に作った。皮から作ったのはじめてで、とてもおいしかった。いつか北京へパンチャンに会いに行くと約束した。「ツァイチェン」とお別れするとき、李さんとお父さんはギュッと抱きあった。そして、私も抱いてくれた。中国のやさしいお父さんのにおいがした。

中国の客人を迎えて

小林　幸雄
岡山県

わが家にふたりの家族（周さん・郭さん）が増えた！　これが今の実感である。

わが屋に外国のお客さんが泊まるなどということは、とても珍しいことである。しかも、一度にふたりである。いよいよその日が近づくと、どのようにもてなすか、少々うろたえる始末であった。

しかし、そんな心配はまたたく間に消え去った。案ずるより産むが易しというが、まさにそのとおりである。

ふたりは、まったく日本語を知らない。もっぱら片言の英語と筆談で話をした。英語といってもお互いそう達者ではない。ひどい日本訛（なまり）の英語と中国訛の英語である。WhenがOneに聞こえたりするのだから、メモ用紙とペンは欠かせない。スペルを綴ってみて互いに納得することが多かった。

しかし、漢字は中国から入ってきただけのことはある。下手な英語をこねくり回すより、漢字で筆談するほうがよっぽど便利であった。その点私の父は、実に上手であった。日本の農業問題、嫁不足問題、新聞のことなど多岐にわたり話し合っていた。

中国は実に広大な国である。それを裏付けるかのように新しい事実を目にした。それは、息子の保育所でのもちつきを見学したときのことである。周さんはもちを食べたことがないと言い、郭さんの故郷では秋の収穫の際、もちをつくと話してくれた。同じ中国とはいえ、風俗、習慣、言葉の違いが大きいのである。

2日目の晩、幾分酔いも手伝って、周さんがお国の歌を披露してくれた。太めの彼が発する声は朗々と響きわたり、あたかも大陸の壮大さを目の当たりにするようだった。

夜が深まったとき、「中国の教育における課題は何ですか」とひとつの質問をした。すると、一瞬遠くを見つめるような目をしたあと、彼は〝費用〟と第一の課題をメモ用紙に記した。中国の9年制義務教育が始まってまだ10年もたっていない。多くの人口がいる。子供たちがいる。たくさんの学校を建てなければならないのだ。そこに私は、現代の中国が抱える苦悩と、中国の教育界を背負う青年教師の志を垣間みた。

この2泊3日のホームステイは、私の家族にとっても貴重な経験になった。別れの日、つらくて泣きじゃくる息子を見て、私も思わず涙してしまった。

ホストファミリーを引き受けて

武内　早苗
島根県

市街から離れた山の中、親子4世代8人家族のわが家に、中国からふたりホームステイに来られた。まあ、大人数には慣れてるから何とかなるだろうと軽い気持ちで引き受けたものの、日ごろ手抜きをしているツケが回ってきて、家中の掃除がまずは大変。献立も私の少ないレパートリーの中で、あれでもない、これでもないと結局いつものワンパターン。

バタバタするうちにアッという間に過ぎてしまった3日間だった。ぎこちないもてなし方ではあったが、今はわが家に来てもらって本当によかったという気持ちでいっぱいである。3人の子供たちも最初は少しとまどっていたが、すぐなついて膝に抱かれたり、だっこしてもらったり、それでも話はまったく通じないので、小さいなりに言葉の違い、国の違いといったものを理解したようだった。私たちも筆談で何とか話をし、慣れてくると冗談も書いたりして大笑いすることもしばしば。言葉の壁はけっして人間同士のふれあいの壁ではなかった。

最初は聞きなれず、違和感のあった中国語も、たった3日間の間にとても親しみのある言葉へと変わっていった。もっといろいろなことを話したいもどかしさはあったが、それを超える絆が私たちの中に、今度はこちらから中国へ行きたいという気持ちとなって残った。それでも気が張っていたのか、やはり無事ふたりを送り出したあとは、ホッとしたが、その日の夜、無性に寂しくなったのである。主人も同じ気持ちだったようで、彼らが残してくれた毛筆の書を見ながら、どうしてこんなに寂しいのだろうと話した。

いつの間にか私たちの心は中国へとても近づいていた。彼らの穏やかな笑顔を思い出すたびに、心が熱くなる思いである。ひとりの方はあの悲惨な戦争で兵士でなかった祖父を失くされていた。それでも彼は淡々として語った。過去はもう過ぎ去ったこと、われわれの世代はこれからの未来を築いていく。そのために自分はこうして日本へ来たのだし、同じアジアの国の友として友好を深めていこうと。その言葉の重みをしっかりと受けとめていかなければと思っている。

3日目の晩に、ふたりにぜひにとお願いして、中国の歌を歌ってもらった。中国の偉大な歴史と人々の広い心とあたたかな大地が、その歌の中に息づいているようだった。私たちが急ぎすぎて、

どこかへ置いてきてしまったものが中国へ行けばきっと見つかる、そんな気がしてならなかった。

少しでも多くの人にこの思いを味わってほしくて、あちこちで「ホームステイを受け入れて、とてもよかったよ」とふれ回っている。ほんの少しの勇気さえあれば、こんな素晴らしい出会いが訪れるのである。今日も子供たちが写真を見て、「おじちゃんたち、どうしてるかなァ」と話していた。私たちから次の世代へと友好の輪はより大きくつながっていくものと信じている。「よし、来年きっと中国へ行くぞ」と決意を新たにして、マイナスの消えない預金通帳とにらめっこをしている。

次女と一緒に

実績資料

1. 実施日程

第9陣　中国青年指導者グループ（平成元年度）

月日	曜	プログラム内容	実施場所
2/26	月	来日　生活ガイダンス	東京
27	火	本計画のブリーフィング　開講式　昼食懇談会　団体プログラム紹介　日本語学習	〃
28	水	講義「日本の産業と経済」　日本語学習	〃
3/1	木	講義「日本と中国」　科学技術館　武道鑑賞および交歓会	〃
2	金	講義「日本の近・現代史」　講義「日本の社会と文化」	〃
3	土	体験的日本語学習打ち合わせ　体験的日本語学習	〃
4	日	〈自主研修〉	〃
5	月	日産自動車村山工場	〃
6	火	山梨へ移動　合宿セミナー開講式　レクリエーション	山梨
7	水	基調講演「青少年事情と今後の展望」　グループ討論Ⅰ　グループ討論Ⅱ	〃
8	木	グループ討論Ⅲ　全体発表会　餃子交流　交流の夕べ	〃
9	金	スポーツ交流　東京へ移動	東京
10	土	東京タワー見学　こどもの城訪問　ＮＨＫ見学	〃
11	日	〈自主研修〉	〃
12	月	講義「放送大学について」　青少年団体との交流会　日本青年館視察	〃
13	火	国会議事堂見学　東京少年鑑別所視察	〃
14	水	宮崎へ移動　宮崎県知事表敬訪問　県日程説明　歓迎レセプション	宮崎
15	木	県勢概要説明　地元青年との班別討論会　科学技術館	〃
16	金	宮崎テレビ視察　波島保育所　ガラス工芸実習　ホームステイ引き渡し	〃
17	土	〈ホームステイ〉	〃
18	日	自主研修　フラワーフェスティバル　さよならパーティー	〃
19	月	広島へ移動	広島
20	火	平和記念公園・原爆資料館見学　マツダ自動車見学	〃
21	水	大阪へ移動　大阪城見学	大阪
22	木	松下電器技術館見学　大蔵省造幣局見学	〃
23	金	民族学博物館見学　京都へ移動	京都
24	土	嵐山(周元総理記念碑参拝)金閣寺見学　自主研修	〃
25	日	古代友禅苑見学　三十三間堂見学　東京へ移動	東京
26	月	帰国準備　総理表敬訪問	〃
27	火	帰国についての説明・諸手続き　評価会　歓送会	〃
28	水	帰国	

第9陣　中国青年経済グループ（平成元年度）

月日	曜	プログラム内容	実施場所
2/26	月	来日　生活ガイダンス	東京
27	火	本計画のブリーフィング　開講式　昼食懇談会　団体プログラム紹介　日本語学習	〃
28	水	講義「日本の産業と経済」　日本語学習	〃
3/1	木	講義「日本と中国」　科学技術館　武道鑑賞および交歓会	〃
2	金	講義「日本の近・現代史」　講義「日本の社会と文化」	〃
3	土	体験的日本語学習打ち合わせ　体験的日本語学習	〃
4	日	〈自主研修〉	〃
5	月	日産自動車村山工場	〃
6	火	プログラムオリエンテーション　歓迎昼食会　講義「産業政策全般について」	〃
7	水	ソニー木更津㈱潮見・達岩根工場（説明・見学・講義「経営理念と労務管理」）	〃
8	木	講義「民営化政策について」　東京証券取引所見学　裏千家淡交会　歌舞伎鑑賞	〃
9	金	神奈川へ移動　合宿セミナー基調講演「企業の経営戦略」　交流の夕べ	神奈川
10	土	グループ討論Ⅰ　グループ討論Ⅱ　全体発表会　スポーツ交流	〃
11	日	箱根観光　東京へ移動	東京
12	月	静岡へ移動　県プログラムオリエンテーション	〃
13	火	県庁表敬訪問　県勢概要説明　県立大学見学　青年会議所役員との懇談会　歓迎会	静岡
14	水	㈱タミヤ模型見学　静岡新聞社・静岡放送視察	〃
15	木	ヤマハ見学　浜松内陸コンテナ基地視察　農業試験場視察	〃
16	金	三保海洋博物館見学　久能山東照宮見学　ホームステイ引き渡し	〃
17	土	〈ホームステイ〉	〃
18	日	〈ホームステイ〉	〃
19	月	東部工業区団地視察（説明・見学）　大昭和製紙鈴川工場（説明・見学）　清水港見学	〃
20	火	カワサキ技研・機工（説明・見学）　中国関係企業との懇談会　歓送会	〃
21	水	広島へ移動　平和記念公園・原爆資料館見学	広島
22	木	宮島・厳島神社見学	〃
23	金	大阪へ移動　関西新国際空港建設現場視察　半田紡績工場見学　京都へ移動	京都
24	土	金閣寺見学　嵐山（周元総理記念碑参拝）二条城・西陣織会館見学　ギオンコーナー	〃
25	日	東京へ移動	東京
26	月	帰国準備　総理表敬訪問	〃
27	火	帰国についての説明・諸手続き　評価会　歓送会	〃
28	水	帰国	

第9陣　中国青年指導者グループ（平成2年度）

月日	曜	プログラム内容	実施場所
11/6	火	来日　生活ガイダンス	東京
7	水	本計画のブリーフィング　開講式　昼食懇談会　団体プログラム紹介　日本語学習	〃
8	木	講義「日本の産業と経済」　武道鑑賞および交歓会	〃
9	金	日本語学習　講義「日本の近・現代史」	〃
10	土	体験的日本語学習打ち合わせ　体験的日本語学習	〃
11	日	国立歴史民俗博物館	〃
12	月	〈自主研修〉　日本語サロン	〃
13	火	講義「日本と中国」　講義「日本の社会と文化」	〃
14	水	国会議事堂見学　多摩少年院視察	〃
15	木	文部省訪問　東京YMCA訪問　東京タワー見学	〃
16	金	山梨へ移動　富士山五合目見学　合宿セミナー開講式・基調講演　交流会	山梨
17	土	グループ討論Ⅰ　グループ討論Ⅱ　交流の夕べ	〃
18	日	グループ討論Ⅲ　全体発表会　閉講式　東京へ移動	東京
19	月	〈自主研修〉	〃
20	火	三重へ移動　オリエンテーション　県勢概要と社会教育の概況説明　歓迎会	三重
21	水	三重子どもの城見学　県庁表敬訪問　鈴鹿サーキット見学　鈴鹿国際フォーラム視察	〃
22	木	健康ランド見学　鈴鹿青少年センター視察　本田技研鈴鹿工場視察　大阪へ移動	大阪
23	金	大阪ツインタワー見学　大阪城見学　大阪市内見学　ホームステイ引き渡し	三重
24	土	〈ホームステイ〉	〃
25	日	ホームステイ　文化交流会（お茶・生け花）　鳥羽へ移動	〃
26	月	答志中学校視察（説明・見学・交流）魚釣り・寝屋子制度説明　答志青年団との交流会	〃
27	火	御木本真珠島見学　鳥羽水族館見学	〃
28	水	合歓の郷見学　さよならパーティー	〃
29	木	京都へ移動　嵐山（周元総理記念碑参拝）	京都
30	金	立命館大学視察（交流）　西陣織会館見学　二条城見学	〃
12/1	土	広島へ移動　平和記念公園・原爆資料館見学	広島
2	日	宮島・厳島神社見学	〃
3	月	東京へ移動	東京
4	火	〈帰国準備〉	〃
5	水	帰国についての説明・諸手続き　評価会　歓送会	〃
6	木	帰国	

第9陣　中国経済青年グループ（平成2年度）

月日	曜	プログラム内容	実施場所
11/6	火	来日　生活ガイダンス	東京
7	水	本計画のブリーフィング　開講式　昼食懇談会　団体プログラム紹介　日本語学習	〃
8	木	講義「日本の産業と経済」　鑑賞および交歓会	〃
9	金	日本語学習　講義「日本の近・現代史」	〃
10	土	体験的日本語学習打ち合わせ　体験的日本語学習	〃
11	日	国立歴史民俗博物館	〃
12	月	〈自主研修〉　日本語サロン	〃
13	火	講義「日本と中国」　講義「日本の社会と文化」	〃
14	水	歓迎会　東京証券取引所視察	〃
15	木	横浜山下公園見学　日産自動車追浜工場見学	〃
16	金	新日本製鉄君津製鉄所（概要説明・講義・見学・質疑）	〃
17	土	神奈川へ移動　芦ノ湖遊覧　合宿セミナー開講式　ボーリング大会　交流の夕べ	神奈川
18	日	グループ討論Ⅰ　グループ討論Ⅱ	〃
19	月	全体発表会　閉講式　東京へ移動	東京
20	火	大蔵省印刷局訪問（説明・見学）　兵庫へ移動	兵庫
21	水	県庁表敬訪問・県勢概要説明　兵庫県基幹プロジェクト概要説明	〃
22	木	東芝姫路工場視察（説明・見学）　姫路城見学	〃
23	金	関西中小企業総合センター見学　地元青年との合宿交流会（討論会・ゲーム）	〃
24	土	地元青年との合宿交流会（スポーツ）　ホームステイ引き渡し	〃
25	日	〈ホームステイ〉	〃
26	月	ホームステイ　神戸商工会議所訪問（懇談会）　神戸新聞社訪問（説明・見学）	〃
27	火	地場産業視察（立杭焼工房）　地場産業視察（三木金物）	〃
28	水	雪印乳業神戸工場見学　神戸商科大学視察（説明・見学・懇談）　さよならパーティー	〃
29	木	広島へ移動　平和記念公園・原爆資料館見学	広島
30	金	大阪へ移動　松下技術館見学	大阪
12/1	土	半田紡績岸和田工場（概要説明・見学）京都へ移動　二条城・ギオンコーナー見学	京都
2	日	嵐山（間元総理記念碑参拝）　金閣寺・京都国立博物館・古代友禅苑見学	〃
3	月	東京へ移動	東京
4	火	〈帰国準備〉	〃
5	水	帰国についての説明・諸手続き　評価会　感想会	〃
6	木	帰国	

第9陣　中国公務員グループ（平成2年度）

月日	曜	プログラム内容	実施場所
11/6	火	来日　生活ガイダンス	東京
7	水	本計画のブリーフィング　開講式　昼食懇談会　団体プログラム紹介　日本語学習	〃
8	木	講義「日本の産業と経済」　武道鑑賞および交歓会	〃
9	金	日本語学習　講義「日本の近・現代史」	〃
10	土	体験的日本語学習打ち合わせ　体験的日本語学習	〃
11	日	国立歴史民俗博物館	〃
12	月	〈自主研修〉　日本語サロン	〃
13	火	講義「日本と中国」　講義「日本の社会と文化」	〃
14	水	講義「日本の公務員制度」	
15	木	講義「日本と中国の行政の比較」　サッポロビール千葉向上見学	〃
16	金	東芝科学館見学　神奈川へ移動　合宿セミナー開講式　交流会	神奈川
17	土	基調講演　グループ講義　全体発表会　交流の夕べ	〃
18	日	富士山散策　東京へ移動	東京
19	月	自主研修　東京証券取引所見学　ＮＨＫ見学	〃
20	火	京都へ移動　嵐山（周元総理記念碑参拝）　西陣織会館見学	京都
21	水	東寺見学　金閣寺見学　清水寺見学　二条城見学	〃
22	木	広島へ移動　マツダ自動車工場見学（説明・見学・質疑）	広島
23	金	平和記念公園・原爆資料館見学　宮島・厳島神社見学	〃
24	土	島根へ移動　オリエンテーション	島根
25	日	自主研修　穴道湖遊覧	〃
26	月	白百合第二幼稚園訪問　八東小学校訪問（説明・見学・教職員との懇談会）	〃
27	火	松江消防署視察　県知事表敬訪問　県職員との懇談会	〃
28	水	横田町特別養護老人ホーム・デイサービスセンター・そろばん・きのこセンター視察	〃
29	木	八東地区広域行政組合北ゴミ処理工場見学　自主研修	〃
30	金	(益田地区) 石見空港建設現場視察　農業センター視察　歓迎レセプション	〃
		(浜田地区)浜田市長表敬　市職員との交流会　歓迎レセプション	
12/1	土	(益田地区) 万福寺・雪舟記念館・競馬場見学　ボーリング大会　交歓会	〃
		(浜田地区) 市内視察・漁港見学・水産加工場・水族館見学　ボーリング大会　交歓会	
2	日	〈ホームステイ〉	〃
3	月	東京へ移動	東京
4	火	〈帰国準備〉	〃
5	水	帰国についての説明・諸手続き　評価会　歓送会	〃
6	木	帰国	

第9陣　中国教員グループ（平成2年度）

月日	曜	プログラム内容	実施場所
11/6	火	来日　生活ガイダンス	東京
7	水	本計画のブリーフィング　開講式　昼食懇談会　団体プログラム紹介　日本語学習	〃
8	木	講義「日本の産業と経済」　武道鑑賞および交歓会	〃
9	金	日本語学習　講義「日本の近・現代史」	〃
10	土	体験的日本語学習打ち合わせ　体験的日本語学習	〃
11	日	国立歴史民俗博物館	〃
12	月	〈自主研修〉　日本語サロン	〃
13	火	講義「日本と中国」　講義「日本の社会と文化」	〃
14	水	文部省訪問・講義「日本と教育事情」　早稲田大学視察	神奈川
15	木	神奈川県庁表敬訪問・講義「神奈川の教育」　横浜三渓園見学（茶道体験）	〃
16	金	ヤクルト富士裾野工場（説明・見学）　合宿セミナー開講式・自己紹介・日程説明	静岡
17	土	両国青年代表基調講演（教育現場から）　グループ検討Ⅰ　交流の夕べ	〃
18	日	グループ検討Ⅱ　全体発表会　閉講式	〃
19	月	神奈川県立弥栄東・西高校訪問（説明・教員との懇談・授業参観・施設見学）	〃
20	火	岡山へ移動　国立吉備少年自然の家視察　オリエンテーション	岡山
21	水	日中教育検討会　あすなろ園訪問（施設見学・懇談会）　鶴山公園見学	〃
22	木	津山市市長表敬訪問　北陵中学校訪問（説明・教員との懇談）　歓迎会	〃
23	金	ホームステイ引き渡し	〃
24	土	〈ホームステイ〉	〃
25	日	〈ホームステイ〉	〃
26	月	津山松下工場見学　高野小学校（説明・教員との懇談・授業参観・施設見学）	〃
27	火	社会保険センター視察　越畑ふるさと村視察（ぞうり作り・餅つき）	〃
28	水	瀬戸大橋見学　大原美術館見学　さよならパーティー	〃
29	木	広島へ移動　平和記念公園・原爆資料館見学	広島
30	金	宮島・厳島神社見学	〃
12/1	土	京都へ移動　二条城見学　西陣織会館見学　古代友禅苑見学	京都
2	日	嵐山・金閣寺・平安神宮見学　自主研修	〃
3	月	東京へ移動	東京
4	火	〈帰国準備〉	〃
5	水	帰国についての説明・諸手続き　評価会　歓迎会	〃
6	木	帰国	

2. 日中青年の友情計画実績一覧

●昭和62年度(100名)

	人数	実施協力団体	実施府県	JICA支部	地方協力団体	県等窓口機関	プログラムコーディネーター	JICAコーディネーター
総団	3	――	―	――	――	――	居崎　司	王　黎杰
勤労青年	25	世界青少年交流協会	大阪	関西	大阪世界青年友の会	大阪市教育委員会青少年教育課	牧尾　春奈	花薗　進 芮　莹
教員	25	国際交流サービス協会	長崎	九州	長崎県海外協会	長崎県総務部総務学事課	鳥居　秋子	林　洋子 清田　明
農村青年	25	中央青少年団体連絡協議会	福井	中部	福井県青少年団体連絡協議会	福井県県民生活部青少年婦人課	清水　弁	品田　理恵 大塚　烈
青年指導者	22	日本経済青年協議会	滋賀	関西	日本青年国際交流機構	滋賀県労働部観光物産課	畔津雄一郎	馬場　節子 寺沢　佳代

●昭和63年度(100名)

	人数	実施協力団体	実施府県	JICA支部	地方協力団体	県等窓口機関	プログラムコーディネーター	JICAコーディネーター
総団	4	国際協力サービス・センター	―	――	――	――	居崎　司	林　けいな
都市経済青年	24	世界青少年交流協会	香川	四国	香川県海外派遣友の会	香川県民生部青少年対策室	西　忠雄	山本　知里 王　黎杰
農村経済青年	24	中央青少年団体連絡協議会	徳島	四国	徳島県青年連合会	徳島県教育委員会社会教育課	山本　信也	青柳　智子 曲　揚
教員	24	国際交流サービス協会	島根	中国	島根県国際交流青友会	島根県総務部総務課	陸　美容	児玉　啓子 村田　好子
青年指導者	24	ユースワーカー開発協会	福井	中部	福井県青少年団体連絡協議会	福井県県民生活部青少年婦人課	福山　敦夫	若林ひろみ 田中　久子

●平成元年度(50名)

	人数	実施協力団体	実施府県	JICA支部	地方協力団体	県等窓口機関	プログラムコーディネーター	JICAコーディネーター
青年指導者	25	ユースワーカー能力開発協会	宮崎	九州	ユースワーカー能力開発協会宮崎県支部	県総務部総務課	福山　敦夫	児玉　啓子 郡　春芬
経済青年	25	青少年育成国民会議	静岡	関東	静岡県国際交流協会	県民生活局国際交流課	佐藤　英彦 湊　明弘	加藤　月子 曲　揚

●平成2年度(100名)

	人数	実施協力団体	実施府県	JICA支部	地方協力団体	県等窓口機関	プログラムコーディネーター	JICAコーディネーター
総団	*4	国際協力サービス・センター	―	――	――	――	――	――
青年指導者	25	日本青年団協議会	三重	中部	三重県連合青年団	知事公室国際課	福田　淳	曲　揚 高木　晶子
経済青年	25	日本経済青年協議会	兵庫	関西	兵庫県青少年本部	(兵庫県青少年本部)	斎藤　孝司	王　黎杰 岡田　美和
公務員	24	国際交流サービス協会	島根	中国	島根県国際交流青友会	総務部総務課文化国際室	吉田　照子	林　幸恵 劉　玉蘭
教員	24	青年海外協力協会	岡山	中国	津山とアジアを結ぶ会	津山市企画調整部企画広報課	出沢　尚子	甲　千恵 郭　紅紅

*うち2名団員兼任

3. 平成２年度青年招へい事業受け入れ実績一覧

受入時期	国名	分野名	人数	実施協力団体名	実施県
5月15日～6月14日	マレイシア	学生	19	青少年育成国民会議	沖縄
	〃	教員	20	国際交流サービス協会	長野
1陣 129名	フィリピン	学生	20	世界青少年交流協会	新潟
	〃	教員	20	日本国際生活体験協会	山梨
	タイ	学生(芸術関係)	25	ユースワーカー能力開発協会	福島
	〃	勤労青年	25	勤労厚生協会	和歌山
5月29日～6月28日	ASEAN混成	学生	30	日本ユネスコ協会連盟	宮城
	ASEAN混成	教員	30	日本ユネスコ協会連盟	兵庫
2陣 155名	ブルネイ	教員・学生（農業関係等）	20	青年海外協力協会	山口
	インドネシア	テーマA（学生）	15	世界青少年交流協会	大阪
	〃	教員	25	中央青少年団体連絡協議会	鳥取
	シンガポール	学生	15	世界青少年交流協会	北海道
	〃	教員	20	国際交流サービス協会	岩手
7月3日～8月2日	フィリピン	勤労青年Ⅰ（農業系）	23	青年海外協力協会	山形
	〃	テーマA	20	青少年育成国民会議	福岡
3陣 131名	シンガポール	公務員Ⅰ	24	国際交流サービス協会	秋田
	〃	勤労青年	24	ユースワーカー能力開発協会	宮崎
	タイ	青年指導者	25	日本友愛青年協会	新潟
	〃	テーマB	15	日本青年団協議会	愛媛
7月9日～8月8日	韓国	学生	31	世界青少年交流協会	富山
	〃	教員	21	国際交流サービス協会	青森
4陣 100名	〃	勤労青年	31	勤労厚生協会	奈良
	〃	青年指導者	17	中央青少年団体連絡協議会	北海道
8月21日～9月20日	ASEAN混成	公務員Ⅰ	30	国際交流サービス協会	栃木
	インドネシア	テーマB（公務員）	20	青年海外協力協会	大分
5陣 165名	〃	農村青年	23	全国農村青少年教育振興会	滋賀
	マレイシア	テーマA（勤労青年）	20	日本経済青年協議会	茨城
	〃	青年指導者	25	青少年育成国民会議	福井
	シンガポール	公務員Ⅱ	24	ユースワーカー能力開発協会	静岡
	〃	青年指導者	23	日本国際生活体験協会	岡山
8月28日～9月27日	ASEAN混成	公務員Ⅱ	30	青少年育成国民会議	九州
	ブルネイ	テーマA	10	日本経済青年協議会	大阪
6陣 126名	フィリピン	勤労青年Ⅱ(産業系)	25	日本ユースホステル協会	京都
	〃	テーマB	21	青年海外協力協会	高知
	タイ	テーマA	15	勤労厚生協会	愛知
	〃	農村青年	25	全国農村青少年教育振興会	佐賀
9月11日～10月11日	PNG	教員	20	国際交流サービス協会	長崎
	〃	青年指導者	10	日本経済青年協議会	岐阜
7陣 78名	フィジー	公務員	12	日本ユネスコ協会連盟	鹿児島
	太平洋混成	公務員	24	世界青少年交流協会	岡山
	〃	教員	12	日本ユースホステル協会	石川
10月16日～11月15日	インドネシア	勤労青年	25	勤労厚生協会	群馬
	〃	学生	22	日本国際生活体験協会	広島
8陣 93名	マレイシア	公務員	26	世界青少年交流協会	香川
	〃	テーマB(農村青年)	20	全国農村青少年教育振興会	熊本
11月6日～12月6日	中国	総団(うち2名団員兼任)	4		
	〃	青年指導者	25	日本青年団協議会	三重
9陣 100名	〃	経済青年	25	日本経済青年協議会	兵庫
	〃	公務員	24	国際交流サービス協会	島根
	〃	教員	24	青年海外協力協会	岡山
11月20日～12月20日	中国	地域産業技術実務者	24	全国農村青少年教育振興会	岐阜
	〃	産業基盤整備実務者	25	青少年育成国民会議	広島
10陣 99名	〃	経済・貿易実務者	25	ユースワーカー能力開発協会	沖縄
	〃	文化・教育関係実務者	25	世界青少年交流協会	徳島
合計	ASEAN 6カ国(799) 太平洋諸国(78) 中国(199) 韓国(100)			53グループ 1176名	

(注) テーマA：ハイテク・科学技術産業の現状、テーマB：地方の農業・地場産業振興